大阪・西ノ辻遺跡

1 所在地　一　東大阪市西石切町三丁目、二　同市西石切町・東山町・弥生町

2 調査期間　一　一九八三年（昭58）一二月～一九八四年五月、二　一九九二年（平4）五月～一九九三年一月

3 発掘機関　㈶東大阪市文化財協会

4 調査担当者　一　福永信雄・菅原章太、二　池崎智詞

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　弥生時代～一七世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

（大阪東北部）

西ノ辻遺跡は近鉄東大阪線新石切駅の南側に広がる。現在のところ、東西約四〇〇m、南北約六〇〇mの範囲とされる。生駒山の西麓に広がる扇状地の性格を持つ低位段丘上（微高地）標高一二m前後の地に営まれている。周辺には隣接して東に神並（縄文時代早期、古墳時代中～後期、奈良時代）、西に鬼虎川（弥生時代前～中期）、南に鬼塚（縄文時代後～晩期、弥生時代前～後期、古墳時代前期～平安時代前期）、北に植附（弥生時代前～中期、古墳時代中～後期、鎌倉時代）の各遺跡が所在する。

現在知られている本遺跡の本格的な開始時期は弥生時代中期である。鬼虎川遺跡が消滅する弥生時代後期には本遺跡に大集落が営まれた。遺跡出土の弥生土器は早く小林行雄氏によって西ノ辻式の型式名が冠され、中期末と後期の標式土器として著名である。最近の調査の結果、古墳時代中・後期と、平安時代後期～室町時代（中世）の集落も営まれたことが判明している。特に中世の集落は、約五〇〇年間居住域を移動しながらも途切れることなく営まれている。調査で出土した膨大な量の遺物（土器を主体に国産陶器・中国製磁器、木製品、金属製品など）と合わせ、山麓における中世集落の実態を考える上で欠くことのできない遺跡となっている。

一　第九次調査

調査地点は、遺跡推定範囲のほぼ中央北よりにあたる。調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓、鎌倉時代の井戸・柱穴・溝・木棺墓と各時期の多量の遺物を検出した。木棺墓は屋敷墓と考えられ、頭を北に向け二基が〇・七mの間隔を置いて東西に営まれていた。副葬品の土師器皿からみて、一三世紀後半の造営である。また調査地の北端で東西に流れる鎌倉時代の河川も検出した。この河川から

は、土器とともに多量の馬などの動物遺存体が遺棄された状態で出土している。

木簡(1)は井戸ＳＥ五から出土した。ＳＥ五は、径約一・五ｍ、深さ約二・八ｍ、平面形が不整円形を呈する素掘りの井戸である。共伴遺物には一三世紀後半から一四世紀前葉に属する瓦器（椀・足釜）、土師器（小皿・中皿・羽釜）、東播系須恵器（揑鉢）などがある。

刻書竹製品(2)～(5)はＳＥ一と仮称した径約〇・九ｍ、深さ二・七ｍ、平面形が不整円形を呈する素掘りの井戸から出土した。共伴遺物には、一三世紀後半に属する瓦器（椀・小皿・足釜・鉢）、土師器（小皿・大皿）、東播系須恵器（揑鉢）、中国製磁器（白磁・青磁）などがある。井戸は本来素掘りではなく、井筒が存在した可能性もあるが、明らかにしえなかった。

二　第三三次調査

調査地点は、第九次調査地点の東約一五〇ｍにあたる。調査の結果、弥生～古墳時代、古墳～奈良時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代の四時期の遺構と遺物を確認した。このうち弥生～古墳時代、古墳～奈良時代、奈良～平安時代の遺構は主に谷筋とそれが埋まっていく過程で作られた遺構である。

鎌倉～室町時代の遺構は井戸五基、土坑四基、溝状遺構一条、不明遺構一基などがある。これらのうち、木簡は井戸四から一点出土した。井戸四は直径〇・七ｍで深さは検出面から二ｍ以上を測る。円形のプランを呈する素掘りのものである。木簡は井戸の埋土中層から一四世紀の瓦器や土師器の土器類・包丁などとともに出土した。

8　木簡の釈文・内容

一　第九次調査

(1)　「〈蘇□□」　143×31×3　032

(2)　・南无大日□　(119)×(16)×3　081

・之有

(3)　□　(32)×(10)×2　081

(4)　□　(31)×(5)×2　081

(5)　□　(77)×(3)×2　081

(1)は上端を圭頭状につくる。墨痕が不明瞭なため、一字目が「蘇」と判読される以外は不詳。形態、墨書から蘇民将来札と推測される。(1)が出土した井戸から、上端に左右の切り込みを入れた木札がもう一点検出されたが、墨痕は認められなかった。

(2)～(5)は、筒状の竹を割いたものに浅く文字を刻んだ刻書竹製品である。図では文字が遺存している部位のみを摘出した。文意は不明である。上端、下端ともに欠損している。

二　第三三次調査

(1)　「〈蘇民将来〈　(183)×40×4　039

呪符としての蘇氏将来札である。上端は圭頭につくり、左右に切り込みを入れる。下端は欠損。文字の磨滅が甚しく、来字以下は不明。

なお、西ノ辻遺跡では本誌に既報告分を含めると、一一点の中世木簡が出土している（『木簡研究』七・八）。全て井戸内から検出されたもので、そのうち蘇民将来札は六点を数える（一九九四年現在）。西ノ辻遺跡のすぐ北に隣接する植附遺跡でも信仰関係の木札や呪符が四点出土しており（『木簡研究』一五）、興味深く思われる。

西ノ辻遺跡及び植附遺跡で蘇民将来札をはじめとする呪符木簡が頻出することについては別に論じたい。

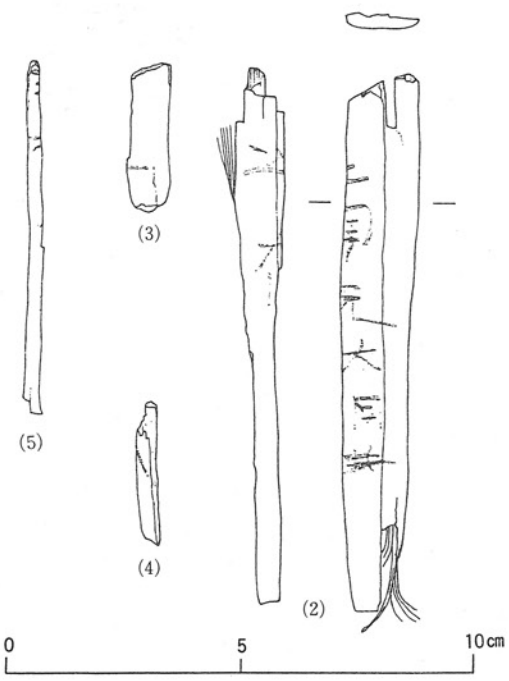
9　関係文献

㈶東大阪市文化財協会『甦る河内の歴史』（国道三〇八号線関係遺跡発掘調査中間報告展図録）（一九八四年）

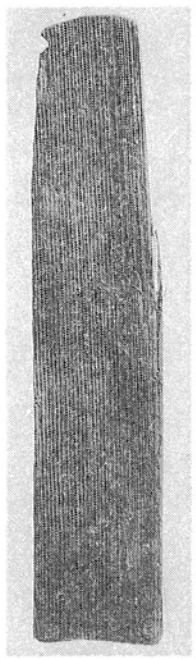
菅原章太「大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土の中世木棺墓について」（『考古学ジャーナル』二三七、一九八四年）

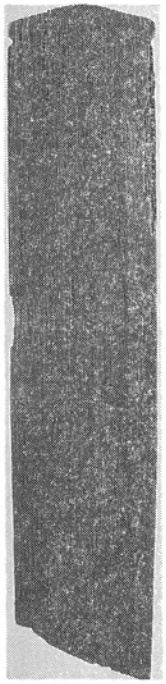
㈶東大阪市文化財協会「東大阪市関係埋蔵文化財調査一覧〔西ノ辻遺跡・第33次調査〕」（『東大阪市文化財協会ニュース』六―二、一九九四年）

（一　福永信雄、二　池崎智詞
釈文・内容　菅原章太）



第９次調査出土木簡





第33次調査出土木簡